

歴博をあるく

# 万国総図・人物図を読み解く

広報部会

今回は第3展示室の絵図・地図です。近世には主に三つの系統の世界図がありました。

①仏教系世界図：仏教的世界観に基づいて近世以前からつくられていた世界図 ②万国総図・マテオ＝リッチ系世界図：西洋の地理的知識によって、17世紀中ごろからつくられた世界図 ③蘭学系世界図：18世紀末以降、蘭学者によって作られた世界図。いずれも幕末まで存続しましたが、主流はしだいに新しい系統の世界図である③に移っていきました。

第3展示室にはこれらの世界図が展示されており、伊能忠敬らの実測による大日本沿海輿地全図もあります。

## 万国総図・人物図

エントランスの壁に展示されている大画面の二幅一対の「万国総図・人物図」(複製)は1645年(正保2)日本で最初に長崎において木版印刷されました。



万国総図(右)と人物図(左) -複製-  
原品：下関市立歴史博物館蔵

## 万国総図

万国総図はマテオ＝リッチの坤輿万国全図をもとに簡略化し、東を上にした卵型の地図です。人物図に描かれた40の民族に対応する地名が日本ほか3か国は漢字で、それ以外の国は変体仮名で書かれて印刷されています。

そのほかの地名はカタカナ手書きで追加し、彩色したとされています。



万国総図(部分)  
上部に日本が描かれています

## 人物図

5列8段に世界40か国の人物絵が男女ペアで並んで描かれており、肌の色の違いや民族衣装の様子などが見てとれます。最上段右端に日本が、上段にアジアの国々が、中段から下段にヨーロッパ・アフリカ・南北アメリカ大陸の国々が配置されています。

日本は男性が鎧兜を纏い白装束の女性が長刀を差し出す絵、いんげれす(イギリス)は男女とも帽子を冠り美しい衣装にマントやガウンを纏った絵で描かれています。アメリカは頭部に羽飾りを付けていて、どうやら北米先住民のようです。



人物図(日本)

異色な国は小人・長人で、説明文が付記されていて、小人は「たけ一尺二寸」とあり男女とも帽子を冠り厚手の服装で万国総図では北海あたりに位置します。また人肉を食らう民族が最下段右端に、切り取った手足を焼いている様子で、描かれています。

## エリアのトピックス

第3展示室には、各種の世界図の他に、伊能忠敬が使用した測量器具類の展示とともに、忠敬の歩幅(69cm)9足分の足跡が1cm刻み6mの目盛りと一緒に床に描かれています。若い来館者に人気で、忠敬の足跡を辿り「意外と歩幅が長いなあ」などと感想を述べたりします。

エリア中央部には70cm角の椅子12個を並べた3畳半大の座れる場所があり、上面に「江戸幕府撰正保日本図」が大きく印刷されています。腰を下ろして休憩することができ、寝そべて遊ぶ子供を見かけることもあります。